

MJ



*2-channel digital proportional
R/C system for cars, boats,
yachts, and other models.*

MEGATECH JUNIOR

カー用AM2チャンネル 2PHKA 取扱説明書

注意

●製品をご使用前に必ず本書をお読みください。

1M23N09808

Futaba[®]
Digital Proportional R/C System

このたびは **MJ** (MEGATECH JUNIOR) をお買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

本書で使用されている専門用語については「用語説明」(16 ページ) をご覧ください。

用途、輸出、改造等に関するご注意

1. 模型用以外に使用しないで下さい。

本説明書に記載されている製品は、日本国内の電波法で、用途が模型用に限定されております。

2. 輸出する際のご注意

- (イ) 本製品を海外に輸出する場合、輸出する国の電波法で認可されていないと使用することはできません。
- (ロ) 模型以外の用途で使用する場合、輸出貿易管理令で規制される場合があり、輸出許可申請等の法的手続きが必要となります。

3. 改造、調整、部品交換した場合のご注意

本製品を弊社以外で改造、調整、部品交換などの手が加えられた場合、一切の責任を負いかねます。

-
- 本書の内容の一部または全部を無断で転載しないでください。
 - 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
 - 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
 - お客様が機器を使用した結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。



目次

ページをクリックするとそのページへ移動します↓

安全にお使いいただくために

●表示の意味	2
●走行（航行）時の注意	2
●ニッカド電池取扱上の注意	4
●保管・廃棄時の注意	4
●その他の注意	5

安全にお使い
いただくために

お使いになる前に

●セット内容	6
●各部の名称／取り扱い方	7

お使いになる
前に

組込／調整方法

●受信機・サーボの接続方法	9
●組込時の安全上の注意	10
●プロポの調整	11

組込／調整方法

機能説明

●ステアリングトリム	12
●スロットルトリム	12
●サーボリバース	12
●ステアリング EPA	13
●スロットル EPA	13
●ステアリング D/R	13
●MC231 CR / MC331 CRの機能	14

機能説明

参考

●規格	15
●用語説明	16
●故障かなと思ったら	17
●修理を依頼されるときは	17

参考






安全にお使いいただくために

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点にご注意ください。

表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要のある内容を示しています。

表 示	意 味
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号：  ; 禁止事項を示します。

 ; 必ず実行する事項を示します。

走行（航行）時の注意

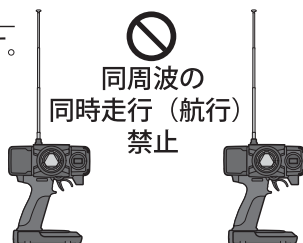
警告

禁止事項

●同じ周波数で同時に走行（航行）させない。

電波が混信して暴走します。

*変調方式（AM、FMおよびPCM方式等）が違っていても周波数が同じ場合は混信します。



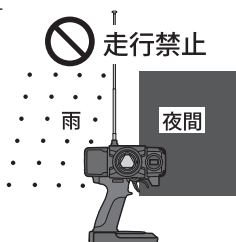
●次のような場所では走行（航行）させない。

- 他のラジコンサーキットの近く（3km程度以内）
- 人の近くや道路
- 手漕ぎボートがいるような池
- 高圧線、通信施設の近く

電波の混信などにより暴走したり、万一、プロポや車体（船体）の故障により暴走した場合、大ケガをします。

●雨の日、水たまりの中、夜間は絶対に走行（航行）させない。

装置内部に水が入り誤動作したり、見失ったりして暴走します。



●疲れているとき、病気の時、酔っ払っているようなときは走行（航行）させない。

集中力を欠いたり、正常な判断ができないため思わぬ操作ミスをおかします。

安全にお使いいただくために

必ず実行する事項

- 送信機のアンテナは全段伸ばして使用する。

アンテナを縮めた状態で使用すると、電波の到達距離が短くなり、暴走します。



- 走行（航行）前には必ずプロポのテストを実行する。

プロポ、車体（船体）等のどこかに一つでも異常があれば暴走します。

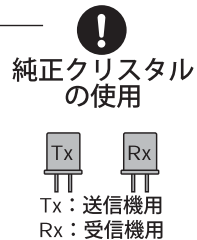
（簡単なテスト方法）

車体（船体）は助手の人に持ってもらうか、台の上に乗せて走り出さないようにし、各舵を動作させてみて、追従動作することを確認します。追従動作しなかったり、異常な動作をする場合は、走行（航行）させないでください。



- 周波数を変更するときは、必ずFutaba純正クリスタルセット（送受信機用）を使用する。

他のクリスタルを使用すると、全く動作できなかったり、動作はできても電波の到達距離が短くなり、暴走の原因となります。



●送受信機用ペアで使用

- 送信機のアンテナがゆるんでいないか確認する。

走行（航行）中にゆるんで外れると送信不能となり暴走します。

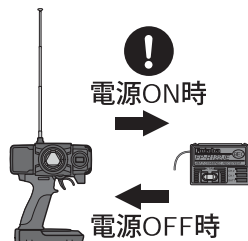
- 電源スイッチを入れるとき

送信機のスロットルトリガーは操作しない状態で、送信機の電源スイッチを入れ、次に受信機側の電源スイッチを入れる。

- 電源スイッチを切るとき

エンジンまたはモーターを停止させた後、受信機側の電源スイッチを切ってから、送信機の電源スイッチを切る。

操作の順番を逆にすると、不意に車（ボート）が暴走する危険があります。



- プロポの調整を行うときは、必ずエンジンを停止させた（モーターの接続を外した）状態で行う。

不意に車（ボート）が暴走する危険があります。

- 走行（航行）するときは送信機に周波数ボードを必ず付ける。

周波数を変更した場合は周波数ボードも替えてください。

- 走行（航行）する前に必ずトリムを合わせてください。

トリムは、実際に走行（航行）するとき以外でも、ずらしてしまうことがあります。トリムがずれた状態で、電源スイッチを入れると、不意に走り出したりして大変危険です。

（トリムを調整するとき）

車体等は手に持つか、台の上に乗せて走り出さないようにしてから、電源スイッチを入れてください。

禁止事項

- 使用中、使用直後には、エンジン、モーター、FETアンプ等には触れない。

高温になっているためヤケドします。

安全にお使いいただくために

ニッカド電池取扱上の注意

(ニッカド電池を使用する場合のみ)

安全にお使いいただくために

警告

必ず実行する事項

●プロポ用ニッカド電池は、走行（航行）前に必ず充電する。

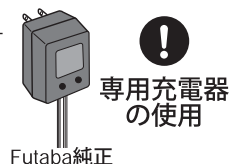
走行（航行）中に電池がなくなると暴走する危険があります。

●走行（航行）させないときは、必ず走行（航行）用ニッカド電池を外しておく。

接続したままにしておくと、不意に車（ボート）が暴走する危険があります。

●プロポ用ニッカド電池の充電は、別売りの専用充電器またはプロポ用の急速充電器を使用する。

規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。



注意

禁止事項

●ニッカド電池の接続コネクタの端子は絶対にショートさせない。

ショートすると発火、異常発熱等により、ヤケドしたり火災を引き起こします。

●ニッカド電池は、落下させるなどの強い衝撃をあたえない。

ショートして異常発熱したり、壊れて電解液が漏れると、ヤケドしたり、化学物質による被害を受けます。



保管・廃棄時の注意

警告

禁止事項

●プロポ、電池、車体等を幼児の手の届く所に放置しない。

触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けます。

●電池を火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。

破裂、異常発熱、漏液等により、ケガ、ヤケド、失明等を負います。

必ず実行する事項

●走行（航行）させない場合は、プロポ用ニッカド電池を放電させた状態で保管し、次の走行（航行）前に充電するようにする。

ニッカド電池の放電が浅い状態で充電を繰り返すことが多いと、ニッカド電池のメモリー効果によって、充電を行っても走行（航行）可能時間が極端に減少することがあります。

⚠️ 注意

🚫 禁止事項

●プロポは次のような場所に保管しない。

- ・極端に暑いところ（40℃以上）、寒いところ（-10℃以下）。
- ・直射日光があたる場所。
- ・湿気の多いところ。
- ・振動の多いところ。
- ・ほこりの多いところ。
- ・蒸気や熱があたる場所。

上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。

⚠️ 必ず実行する事項

●長期間使用しない場合は、ニッカド電池を車体（船体）から取り出して、湿気の少ない場所に保管する。

そのまま放置すると、電池の漏液により、車体（船体）の性能や寿命を低下させます。

<ニッカド電池の電解液について>

ニッカド電池内の電解液は強アルカリ性のため、電解液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。こすらずに、すぐにきれいな水でよく洗い流した後、直ちに医師の治療を受けてください。また、電解液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

<ニッカド電池のリサイクルについて>

使用済みニッカド電池は貴重な資源です。端子部分にテープを貼るなどの処理をして、ニッカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

その他の注意

⚠️ 注意

🚫 禁止事項

●燃料、廃油、排気等を直接プラスチック部分にかけない。

そのままにしておくと、プラスチックが侵され、破損します。

⚠️ 必ず実行する事項

●送信機、受信機、サーボ、FETアンプ、ニッカド電池その他オプションパーツは、必ずFutaba純正品の組み合わせで使用する。

Futaba純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。



⚠️ 純正品を使用



安全にお使いいただくために

セット内容

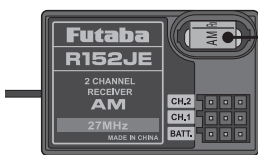
箱を開けたら、まず次のものがそろっていることを、お確かめてください。セットにより内容が異なります。

	2サーボ付 セット	MC231 CR付 セット	MC331 CR付 セット
送信機	T2PHKA (x1)		
受信機	R152JE (x1)		
サーボ	S3003 (x2)	S3003 (x1)	
FET アンプ		MC231CR (x1)	MC331CR (x1)
スイッチ	CSW-BN (x1)		
バッテリー ホルダー	R2-BSS-N (x1)		
その他	サーボ取付パーツおよび サーボホーン (1式)		
		ミニドライバー	
	周波数ボード (x1)、取扱説明書 (本書)		

お使いになる前に

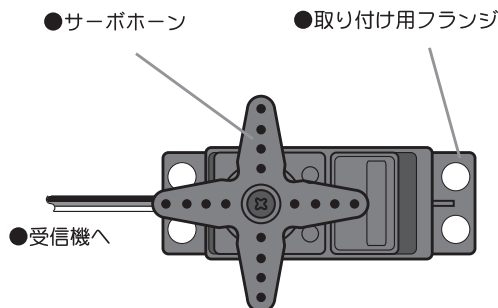
●セット内容に、不足や不明な点があるときはご購入店にお問い合わせください。

受信機 R152JE



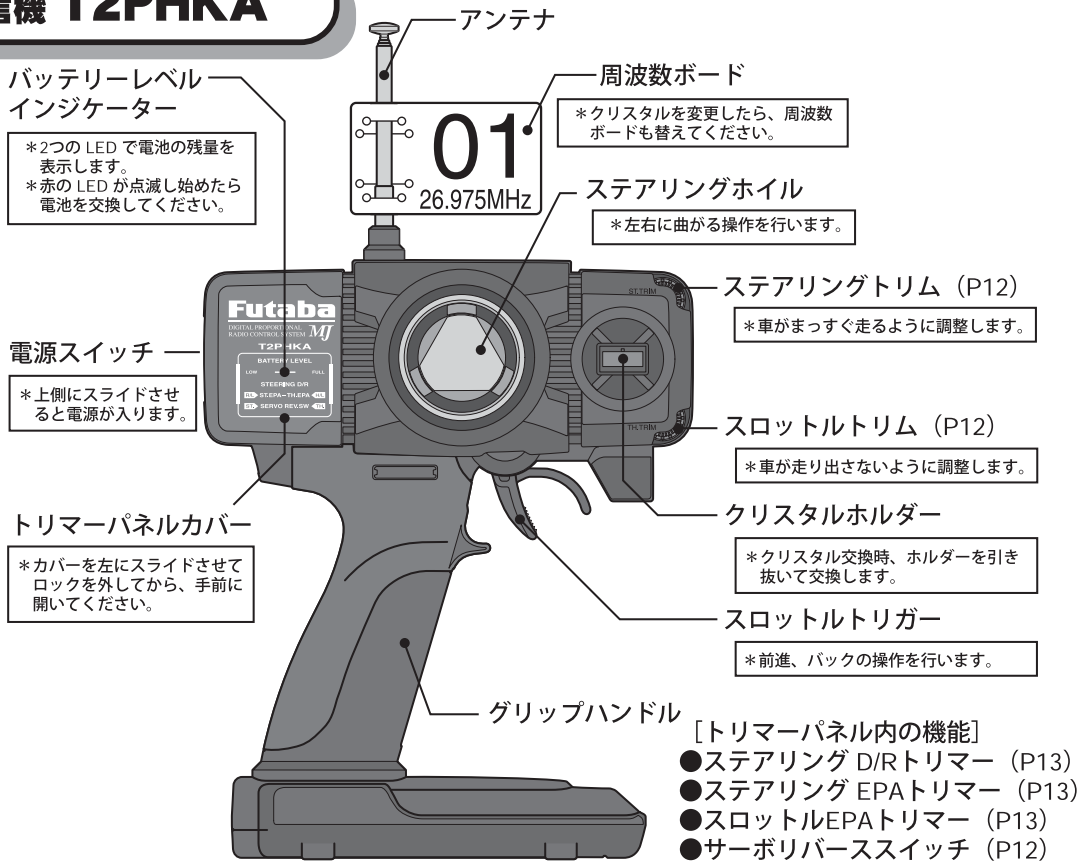
- クリスタル
- 出力コネクタ
"CH.1": ステアリングサーボ
"CH.2": スロットルサーボ
- 電源接続コネクタ ("BATT")

サーボ S3003



各部の名称／取り扱い方

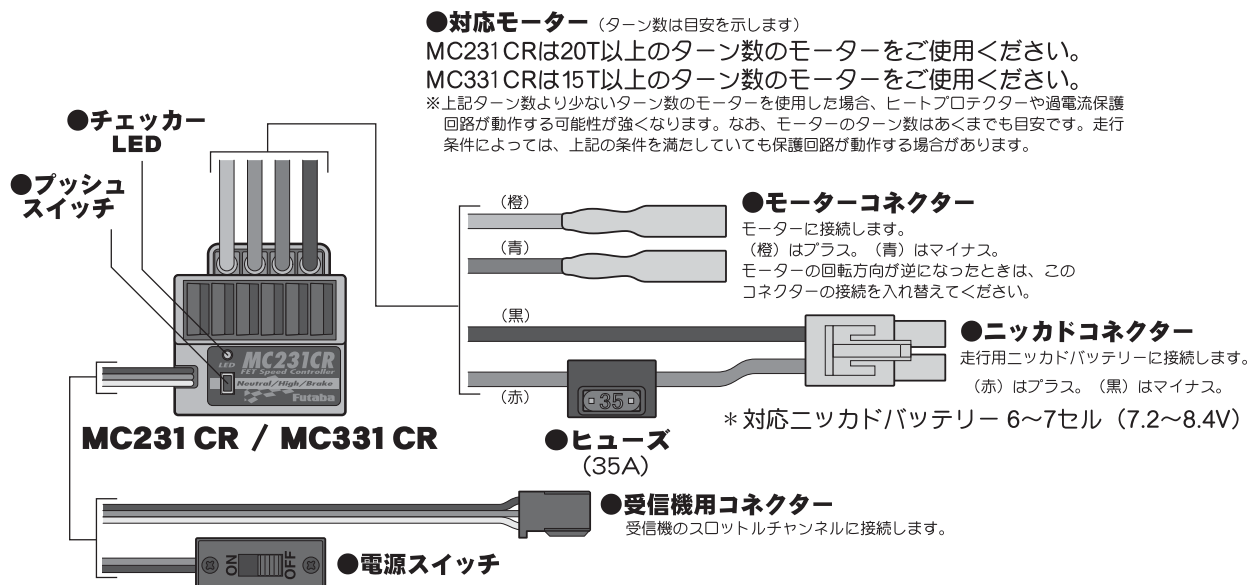
送信機 T2PHKA



お使いになる前に

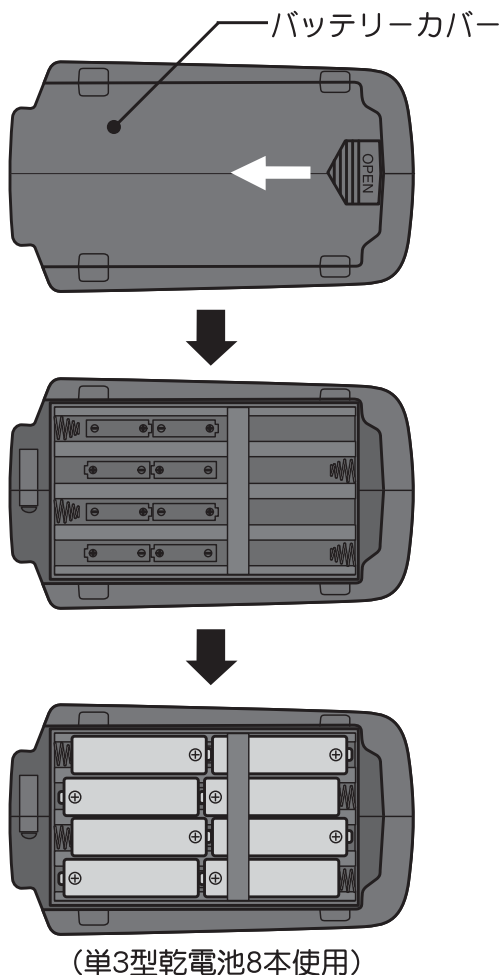
各機能の内容につきましては、上図に記載のページをご覧ください。

FETアンプ MC231 CR / MC331 CR



乾電池の交換方法

- 1 バッテリーカバーを図の矢印の方向にスライドさせて開ける。
- 2 古い乾電池はすべて取り出す。
- 3 新しい乾電池を極性表示の方向に合わせて入れる。
- 4 バッテリーカバーをスライドさせて閉める。



<確認>

電源スイッチを入れて、バッテリーレベルインジケータの2ヶのLEDが点灯することを確認してください。
電圧が上がらない場合は、接触不良や、極性違いをチェックしてください。

⚠ 注意

●乾電池は+-を正しく入れる。

極性を間違えると送信機を破損します。

●使用しないときは乾電池を外しておく。

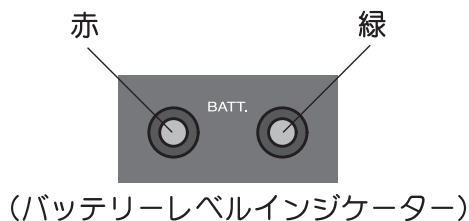
万一、液もれしたときはケースや接点に付いた液をよく拭き取ってください。

<乾電池の処理方法について>

使用済みの乾電池の処理方法は、お住まいの地域により異なります。お住まいの地域の処理方法に合わせて、正しく処分してください。

<バッテリーアラーム表示>

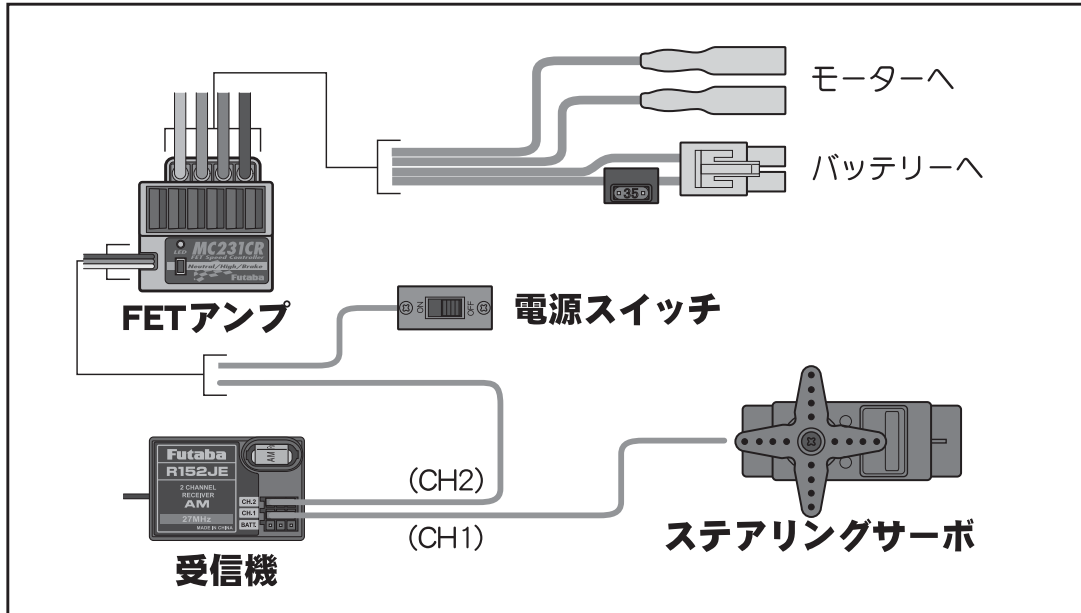
バッテリーレベルインジケータLEDの緑が消え、赤が点滅したらすぐに乾電池を新品と交換してください。



受信機・サーボの接続方法

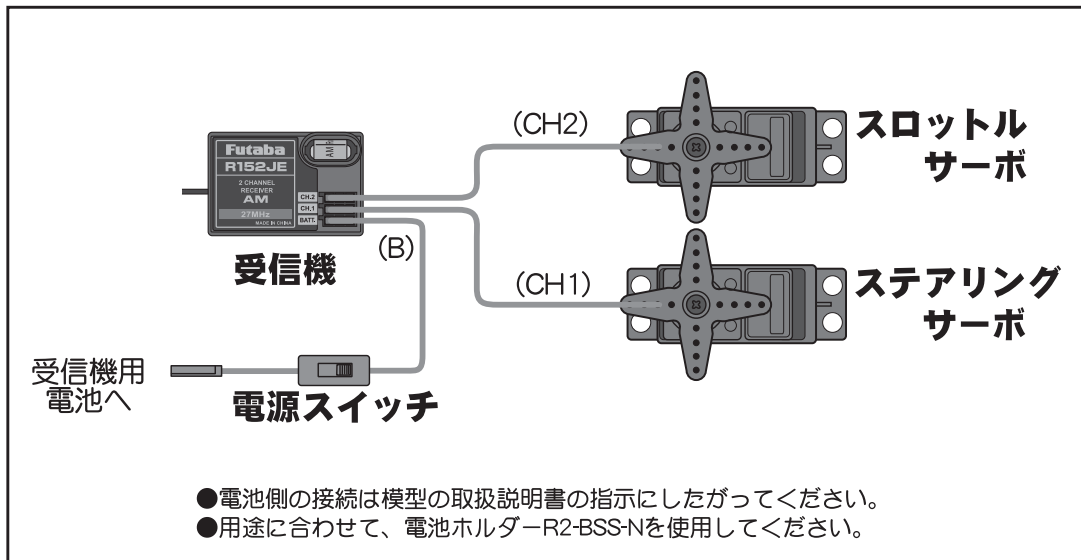
受信機、サーボ等の接続および組込は、次のページの”組込時の安全上の注意”にしたがって行ってください。

FETアンプ使用の場合（MC231CR / MC331CR）



組込／調整方法

エンジンカーの場合



組込時の安全上の注意

警告

禁止事項

受信機アンテナ

- 切断したり束ねたりしない。
- サーボのリード線と一緒に束ねない。
- モーターや動力バッテリー等の大電流が流れる部分（配線を含む）に近づけない。（1cm以上離す）

切断したり、束ねたり、ノイズ源に近づけると、受信感度が下がって走行（航行）範囲が狭くなり、暴走の原因となります。

*ノイズは金属やカーボン等の電気を通すものを伝わってくるので、それらのパーツからも離してください。

必ず実行する事項

コネクター／クリスタル接続

- 受信機、サーボ、電池等の接続コネクターおよびクリスタルは奥まで確実に挿入する。

走行（航行）中に、車体（船体）の振動等でコネクターまたはクリスタルが抜けると暴走の危険があります。

サーボの動作中

- 各舵のサーボを動作中いっぱい動作させてみて、プッシュロッドがひっかかったり、たわんだりしないように調整する。

サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって暴走の危険があります。

受信機の防振／防水

（車の場合）

- 受信機は厚手の両面テープで固定し、防振対策を行う。

（ボートの場合）

- 受信機はスポンジゴム等で包んで防振対策をする。また、ビニール袋等に入れて、防水対策を行う。

強い振動やショックを受けたり、水滴の侵入によって誤動作すると暴走します。

サーボの取り付け

- サーボは防振ゴム（ラバーグロメット）を介してサーボマウント等に取り付ける。また、サーボケースがサーボマウント等の車体（船体）の一部に直接接触れないように搭載する。

サーボケースが直接車体（船体）に触れていると、振動が直接サーボに伝わり、その状態が続くとサーボが破損し暴走します。

FETアンプ

- FETアンプの導電部分が、アルミやカーボンシャーシ等の電気を通すものに触れないように取り付ける。

走行（航行）中に触れて、他の回路とショートした場合、暴走します。

モーターのノイズ対策

- 走行（航行）用モーターには、必ずノイズ取りのコンデンサーを取り付ける。

ない場合、ノイズの影響で、走行（航行）可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。

その他のノイズ対策

- 車体（船体）に、振動で金属同士が接触するような部分がないように整備する。

このような部分があると、受信特性に影響を受け、走行（航行）可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。

プロポの調整

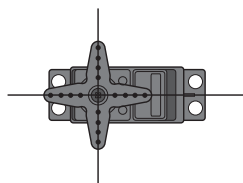
ここでのセッティング時には、走行モーターは接続しないでください。

調整の前にステアリングEPA、スロットルEPA、ステアリングD/Rの各舵角調整トリマーを最大（目盛；10）にしておきます。

サーボホーン取付け方

- 1 受信機、サーボ等が接続された状態で、送受信機の電源スイッチを入れる。
- 2 送信機のトリムをセンターにする。
- 3 この状態で、模型のマニュアルに指定された方向にサーボホーンを取り付ける。

●サーボがニュートラル位置に移動します



ステアリング

N側：ノーマル
R側：リバース

スロットル

N側：ノーマル
R側：リバース

(リバーススイッチ)

サーボの動作方向を反転する場合

- 1 サーボの動作方向が模型の指定と逆の場合、リバーススイッチで反転する。（右図参照）

組込／調整方法

FET アンプ MC231 CR / MC331 CR の調整

●ニュートラル／ハイ／ブレーキMAXポイントの設定方法

各ポイントを設定する前に、送信機のスロットルチャンネルの舵角調整(EPA)はハイ側、ブレーキ側ともに100%に、また、トリムをニュートラルにします。

- 1 送信機 → アンプ側の順で電源をONにします。

	送信機スロットル操作	MC231CR/MC331CR (プッシュスイッチ操作)	(チェッカー-LED)
2 ニュートラル ポイントの 設定	 ●ニュートラルの 状態とし、	●プッシュスイッチを押す。 (0.5秒以上) (確認音が鳴ります)	●1回の点滅が続きます。
3 ハイポイント の設定	 ●フルハイの 状態とし、	●プッシュスイッチ を押す。 (確認音が鳴ります)	●2回の点滅が続きます。
4 ブレーキ MAX ポイントの 設定	 ●フルブレーキの 状態とし、 フルブレーキ	●プッシュスイッチ を押す。 (確認音が鳴ります)	●消灯すれば設定完了。

※全てのポイントの設定が完了した時点でデータを読み込むため、
個々のポイントを単独で設定することはできません。
※設定の途中でアンプの電源をOFFにした場合、設定ポイントは記
憶されません。(前回の設定を保持)
※確認音はモーターを接続した場合にのみ鳴ります。

●消灯せず早い点滅状態となる場合は、正常に設定
されていません。再度「ニュートラルポイントの
設定」からやり直してください。

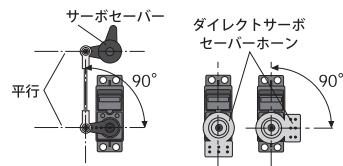
早い点滅が続きます。

ステアリングトリム

ステアリングトリムつまみを右または左に操作することにより、ステアリングのニュートラル調整ができます。

アドバイス

車体を組み立てる際にトリムがセンターの状態、サーボホーンと車体側のサーボセーバーホーンが平行になるようにサーボホーンの穴の位置およびロッドの長さを調整してください。また、ダイレクトサーボセーバーホーンを使用する車体の場合は、トリムがセンターの状態での限りニュートラルに近くなるように、ダイレクトサーボセーバーホーンを装着してください。



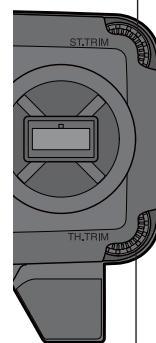
トリム動作と最大舵角の関係

トリムの動作は全体が変化しますので、トリム操作した場合は最大舵角（ステアリングEPAの右側および左側）を再度確認してください。

トリムの設定量が大きくなってしまったとき

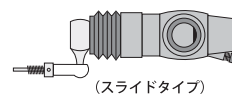
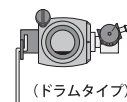
ニュートラル調整を行い、トリムの調整量が極端に右側または左側に移動してしまう場合は再度車体のリンケージを修正してください。

ステアリング
トリム



スロットル
トリム

キャブレター全閉状態



スロットルトリム

スロットルトリムを右または左に操作することにより、スロットルのニュートラル調整ができます。

アドバイス

電動カーでFETアンプを使用する場合は、トリムをセンターに設定しFETアンプ側でニュートラルの調整をしてください。またエンジンカーの場合はエンジンの説明書にしたいが、トリムがセンターの状態ではキャブレターが全閉になるようにスロットルのリンケージを調整してください。

トリム動作と舵角の関係

トリムの動作は全体が変化しますので、トリム操作した場合はブレーキ（バック）側の最大舵角も変化します。

トリムの設定量が大きくなってしまったとき

ニュートラル調整を行い、トリムの設定値が極端に前進側またはブレーキ（バック）側に移動してしまう場合は再度車体のリンケージを修正してください。

サーボリバース

ステアリング、スロットルの動作方向を反転する機能です。

ただし、トリムの設定位置がセンターからずれている場合、センターを境に反対側にずれずれます。



ステアリング

N側：ノーマル
R側：リバース

スロットル

N側：ノーマル
R側：リバース

(リバーススイッチ)

ステアリング EPA



(ステアリング EPA)

リンケージで、ステアリングの左右の舵角調整を行うときに使用します。車体の特性等で、左右の切れ角、回転半径に差が出る場合に補正します。

警告

●ステアリング操作時、ナックルストッパーにあたったりして、サーボホーンに無理な力がかからないようにしてください。

サーボホーンに無理な力が加わった状態では、サーボの故障の原因となり、暴走の危険があります。

スロットル EPA



(スロットル EPA)

リンケージで、スロットルの舵角調整を行うときに使用します。電動カーでFETアンプを使用する場合は、ロー、ハイ側とも最大舵角（10）に設定しておきます。またエンジンカーの場合はハイ側およびブレーキ側舵角を調整します。

ステアリング D/R



0側：舵角最小
10側：舵角最大

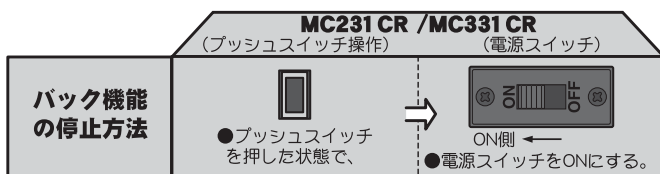
(ステアリング D/R)

走行中、コーナーでアンダーステアぎみで、舵角が足りないときはダイヤルを右に、オーバーステアぎみで、舵角が大きいたときはダイヤルを左に操作して、舵角を調整します。

MC231 CR / MC331 CRの機能

■バック機能の停止方法

バック走行禁止のレース等でも使用できるように、下記の方法でアンプのバック機能を停止させることができます。（ブレーキ動作のみとなります）



※バック機能を停止している状態からバック機能付きに戻したい場合にも上記の操作で切り替えます。（交互に切り替わります）

■ブレーキ/バックの操作方法

バック操作は、スロットルトリガーをブレーキの状態から一度ニュートラルへ戻すことで、バック側の操作に切り替わります。




■保護回路の動作

MC231CR/MC331CRには下記の保護回路が内蔵されています。保護回路が作動した場合は、その原因を取り除いてからご使用ください。

過電流保護	●出力ショート等により過電流が流れた場合、自動的に電流を制限しFETを保護します。 ⇒ ショート等の原因を取り除いてから操作してください。
ヒートプロテクター	●過負荷等によるFETの異常発熱を検出すると、徐々にスピードを下げるように動きます。 ⇒ 温度が下がれば自動復帰しますが、原因を取り除いてから操作してください。
電圧低下時の動作	●ニッカドバッテリーの電圧低下時、モーター出力電流を制限しステアリング操作を確保します。 ⇒ スピードが落ちてきたら、車をすみやかに回収してください。

■チェッカーLED表示

アンプの動作とチェッカーLED表示の関係を下図に示します。

操作	チェッカーLED表示
アンプの電源ON時	(バック動作可能な設定の場合) 1回のみ点滅します。(確認音1回) (ブレーキ動作のみの設定の場合) 2回のみ点滅します。(確認音2回)
 ハイポイント 前進	●消灯 ○点灯 ※ハイポイントに近づくと明るくなる。
 ニュートラルポイント バック/ブレーキ	●消灯 ○点灯 ※ブレーキMAXポイントに近づくと明るくなる。
 ブレーキMAXポイント	●消灯
(アンプ電源切り忘れアラーム) 送信機側の電源を先にOFFしてしまった場合	点滅状態となります。(確認音も鳴ります) ※PCM受信機の場合は表示しません。 ※送信機OFF時、サーボが誤動作するような環境では機能しません。

※確認音はモーターを接続した場合のみ鳴ります。



参 考

規 格

*仕様・規格は予告なく変更することがあります。

送信機 T2PHKA

(ホイール式、2チャンネル)
送信周波数：27 MHz 帯
変調方式：AM (振幅変調)
使用電源：12 V (単3乾電池8本)
消費電流：250mA以下

サーボ S3003

(スタンダードサーボ)
使用電源：4.8 V または 6 V (受信機と共通)
消費電流：8mA / 6V 時 (停止時)
出力トルク：3.2 kg・cm (4.8 V 時)
動作スピード：0.23 sec/60° (4.8 V 時)
サイズ：40.4×19.8×36 mm
重量：37.2 g

27MHz 帯
地上・水上用
周波数

周波数 (MHz)	バンド No.
26.975	01
26.995	02
27.025	03
27.045	04
27.075	05
27.095	06
27.125	07
27.145	08
27.175	09
27.195	10
27.225	11
27.255	12

受信機 R1 52JE

(2チャンネル、AM受信機)
受信周波数：27 MHz 帯
中間周波数：455 kHz
使用電源：6.0 V
消費電流：5 mA (無信号時)
サイズ：25.6×37.7×15.3 mm
(突起、アンテナは含まない)
重量：14.8 g

FET アンプ MC231 CR / MC331 CR

(バック付 FET アンプ)
動作方式：前進、バック、ブレーキ動作が全てリニア方式
使用電源：ニッカドバッテリー 6~7セル (7.2~8.4V)
PWM周波数：1.5 kHz (固定)
設定方法：プッシュスイッチによるワンタッチ入力。設定データは内蔵EEPROMに保存。
電流容量 (FET規格)：瞬間最大=90A/200A、連続最大=45A/100A
ケースサイズ：27.1×33.3×12.8 mm (突起部を除く)
シリコンコードゲージサイズ：AWG16/AWG14相当
コネクター仕様：(バッテリー側) タミヤタイプコネクター (モーター側) ギボシコネクター
重量：44/45 g (コネクター、スイッチを含む)
BEC電圧：6.0V

この説明書に使用されている用語について五十音順に簡単に説明します。

キット

模型などの組立用に加工された部品がセットされたもの。

サーボホーン

サーボの軸に取り付けられ、サーボの回転運動を直線運動に変えて、ロッドに伝えるためのもので、様々な形状のものがあります。

サーボマウント

サーボを車体に取り付けるための車体側の台。

ステアリング (ST.)

車の前輪の操縦系統のことです。実車のハンドルに相当します。

ステアリングホイール

送信機についているステアリングを操縦するためのもの。車輪 (ホイール) の様な形状をしている。

スロットル (TH.)

エンジンの吸入口にある混合気の制御部のことです。開けると (スロットルハイ側) 混合気が多く吸い込まれてエンジンの回転数は上がり、閉じると (スロットルロー側) 下がります。

スロットルトリガー

送信機についているスロットルを制御するためのもの。ピストルの引き金 (トリガー) の様な形状をしている。

チャンネル

コントロール系統の数を表します。別の表現では、いくつのサーボを動作させられるかということになります。

トリム

車やボートなどの安定走行のための各舵のニュートラルの微調整装置のことで、車やボートなどのくせを修正する機構。

ニュートラル

中立という意味。送信機のステアリングホイールや、スロットルトリガーを操作していないときの中立に戻った状態をいう。

ノーマル

サーボリバース機能などで、ノーマル側 (正転側) というふうに使います。反対はリバース側 (反転側)。

バンド

使用できる周波数の種類のこと。チャンネルともいう。

プロポ

現在のラジコンは、送信機の操作に比例 (プロポーション) してサーボが動くことから、ラジコン装置のことをプロポという。

変調方式

ラジコンで使用される変調方式は、AM (振幅変調) と FM (周波数変調) の2つがあります。また、変調方式とは別に、変調信号をコード化して送信するものがPCM方式と呼ばれています。

ラジコン

ラジオコントロールを略したもので、無線操縦のこと。

リバース

サーボリバース機能の場合、リバース側 (反転側) というふうに使います。反対はノーマル側 (正転側)。

リンケージ

サーボと車体の舵の間をつなぐ連結機構のこと。

ロッド

サーボと車体の舵の間をつなぐ棒のこと。

故障かなと思ったら

下表のチェックを行ってください。それでもなおらないときは、Futabaサービスセンターにご連絡ください。

送信機		受信機	
●電池		●電池	
電池切れ	乾電池を交換する。	電池切れ	乾電池を交換する。ニッカド電池を充電する。
入れ間違い	極性表示どおりに入れ替える。	極性間違い	極性表示どおりに入れ替える。
接点の接触不良	接点バネの変形があれば直す。	●アンテナ	
接点のよごれ	乾いた布で拭き取る。	他の配線と近い	他の配線と分離する。
●アンテナ		カットしていないか	修理依頼する。
外れかけ	ロックするまでネジ込む。	束ねていないか	説明書の指示に従って張る。
全段伸びていない	前段伸ばす。	●クリスタル	
●クリスタル		抜けかけ	押し込む。
抜けかけ	押し込む。	バンド違い	送受信機のバンドを合わせる。
バンド違い	送受信機のバンドを合わせる。	指定と異なる	指定のものに替える。
指定と異なる	指定のものに替える。		
コネクタ接続		リンケージ	
配線違い	差し替える。	ひっかかりやたわみ	車体側で調整する。
抜けかけ	押し込む。	動きが重くないか	車体側で調整する。
モーター（電動の場合）			
ノイズ対策	ノイズ取りのコンデンサーを付ける。		

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、もう一度この取扱説明書をお読みになって、チェックしていただき、なお異常のあるときは、次の要領で修理を依頼してください。

<依頼先>

お近くのラジコンカスタマーサービスセンターへ修理依頼してください。

<修理の時に必要な情報>

トラブルの状況をできるだけ詳しく書いて修理品と一緒に送ってください。

- 症状（トラブル時の状況も含めて）
- 使用プロポ（送信機、受信機、サーボの型番）
- 搭載車体（車体名、搭載状況）
- お送りいただいた修理品の型番及び個数
- ご住所、お名前、電話番号

<保証内容>

保証書をご覧ください。

- 保証書の範囲内で修理をお受けになる場合は、修理品と一緒に保証書を送付してください。この場合、販売店印と購入日付の記入があるもののみ有効です。

<本製品に関するご質問、ご相談>

お近くのラジコンカスタマーサービスセンターへご質問、ご相談ください。

<ラジコンカスタマーサービスセンター>

双葉電子工業（株）
ラジコンカスタマーサービス
〒299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚1080
TEL.(0475)32-4395

参
考

MJ